



# Dairy Japan

2005年2月号

NO.2

(2月15日発行)

## 出版案内

新刊書籍 2月25日発行!

### 現場獣医師の

### 現場改善プログラム

- 農場の本当の問題点を見つけるために -

【三好志朗 著】 B5判 120頁 定価3,200円(本体3,048円)

「異常なものを見続けると、それが正常に見えてくる」 日々、牛と接していると少しの変化が見えなくなってしまう。何かおかしいかくらいで終わってしまい、気がついたら手遅れ。こんなことはありませんか。重箱の隅をつつくのではなく、牛が「何を一番訴えているか」を感じとることが大事。本書はそのヒント集です。

### 【もくじ】

- ステップ1 農場で・・・「牛の訴え」に耳を傾ける
- ステップ2 栄養の知識をおさらいする
- ステップ3 現場で生かせるヒント集
- ステップ4 パーンミーティングでチェックする



### 【三好先生の訪問農場の声 (埼玉県 K 牧場)】

- 具体的に「後押し」してくれる - 三好先生の定期巡回を受けるようになって2年。きっかけは、起立不能が多発し、牛群の健康管理を相談したこと。牛舎を見てもらい、牛床、牛の繋ぎ方を改善しました。以前からの漠然とした私の気持ちを、同先生が「具体的に後押し」してくれました。今では何でも相談に乗ってもらっています。先生からは「人の真似をしないで、自分に合った飼いや、経営を確立すること」といつも言われています。乳量が高くても廃用が多く、このままでは経営が立ち行かなくなる恐れがあった私の牛群も、先生に相談するようになってから、徐々に持ち直し、私の気持ちも少しずつ楽になりました。自分の状況を隠さずに説明し、酪農への意欲を示せば、先生は必ず改善への糸口を探し出し、後押ししてくれます。

\*\*\* 注文書 (黒色ボールペンで明記の上、この用紙ごと FAX してください) \*\*\*

見積書・納品書ご希望の際は、その旨お知らせください。まとめてご購入の際は、ご相談ください。  
書籍は臨時増刊号とは異なる出版物です。ご注文の際は、お間違いのないようにご注意ください。

【書籍】 現場獣医師の現場改善プログラム (三好志朗 著) \_\_\_\_\_ 冊  
お名前: (フリガナ) \_\_\_\_\_ (課: \_\_\_\_\_ 担当者名 \_\_\_\_\_)

ご住所: 〒 \_\_\_\_\_

TEL / \_\_\_\_\_ FAX / \_\_\_\_\_

e-mail / \_\_\_\_\_

お支払い方法 (いずれかにをつけてください)

- 1 一括払い (商品と一緒に郵便振替用紙を同封します。郵便局から送金してください)
- 2 農協から控除 / 組助 (農協名: \_\_\_\_\_)
- 3 クレジットカード VISA MasterCard カド有効期限 [(月) \_\_\_\_\_ / (年) \_\_\_\_\_]  
カード番号 (16桁) [ \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ ]

(株) デーリィ・ジャパン社 〒162-0806 東京都新宿区榎町 75 番地

TEL 03-3267-5201 FAX 03-3235-1736

ホームページ: www.dairyjapan.com E-mail: milk@dairyjapan.com

## デーリィ・ジャパンニュース

「平成 17 年度生乳及び牛乳乳製品の需給見通し」策定 (社)日本酪農乳業協会 (JMILK)  
(社)日本酪農乳業協会 (JMILK) は、1 月 28 日「平成 17 年度の生乳・牛乳乳製品の需給見通し」を策定した。

《生乳生産量》年度で、北海道では、3,856 千トン (100.8 %) と増加に転じると見通され、都府県は 24,364 千トン (97.8%) と引き続き減少を示すと見通される。

《牛乳等の需給量》生乳供給量及び用途別処理量において、生乳供給量は 8139 千トン (99.2%) [北海道: 3819 千トン (100.8%)、都府県: 4320 千トン (97.8%)] の見通し。用途別には、牛乳等向が、4803 千トン (98.3%) 乳製品向が 3336 千トン (100.6%) と見込んだ。  
(社)日本酪農乳業協会 (<http://www.j-milk.jp>)

## 平成 17 年度計画生産の基本方針決定 (社)中央酪農会議

(社)中央酪農会議は、9 日の理事会で平成 17 年度生乳計画生産の基本方針を決定し、販売基準数量を 732 万トンとすることを決めた。また、平成 17 年度では脱粉在庫の削減に全国的に取り組むため、販売基準数量の中で、5,000 トンの脱粉在庫削減対策を新たに実施する。また、指定団体は輸入調整品、飼料向け、チーズ向けなどの新規用途に仕向けることを決めた。また、牛乳の消費減退が現在の需給緩和の背景にあることから、飲用牛乳向け生乳 1kg 当たり 15 銭の抛出により 7 億円程度の規模の牛乳消費拡大事業を緊急に 5 年間実施することも決めた。  
(社)中央酪農会議 (<http://jdc.lin.go.jp>)

## 現場の知恵 & 工夫

~ 最新号よりつまみ読み ~

### パソコンの粘着タックシールを利用 - 栃木県 I 牧場 - (右写真)

栃木県 I 牧場は電柱で建てた施設を、搾乳牛用の繋ぎ牛舎にしている。濃厚飼料は自動給飼機を使い、1 頭ごとの粗飼料の給与量の目安を、パソコンで「わら多め」「ロール多め」「ルーサン 1/3」などと色違いの粘着タックシールにプリントし、各牛の上部の柱に貼っている。「画鋲は危険だけど、粘着シールなら貼るのも剥がすのも簡単で安全」と I さん。



### 洗剤容器を“湯たんぼ”に - 北海道 M 牧場 - (左写真)



液体洗剤の入っていた空箱、その中にはプラスチックの容器があります。これをとっておくとよいかも知れません。北海道十勝管内 M 牧場では、生まれたばかりの子牛の体が冷えてしまったとき、このプラスチックの容器 2~3 個に少々熱めのお湯を入れ、子牛とともにハッチの中に入れておきます (要するに“湯たんぼ”)。これで今までに 2 頭ほど、もうダメかと思われた子牛を救ったそうです。

【北海道十勝管内 N さんからお寄せいただきました。ありがとうございます】

~ 画像はホームページ「DairyJapan / ちょっと立ち読み」のコーナーで公開いたします ~